

組紐

日本とアメリカの組紐展

2023年10月11日～15日 kokoka 京都市国際交流会館 2F

Ancient Modern

This necklace was a study of how to use fiber in braids to create varying textures. Although the end goal was to create a beautiful necklace it was a really good course of studying color placement, thick and thin fibers as well as experimenting with changing braid structures within the same length of fibers. The use of Japanese space dyed silk contributed to the experiment with wonderful results.

Adrienne Gaskell

Exhibition of Japanese and American Kumihimo

吊り重り無しの組紐

ほとんどの組紐は、重り玉の重さの合計の約40%の吊り重りとバランスをとって組みますが、これらは全て吊り重りを一切つけないで組んだ組紐です。滑り落ち易くなるので、鏡の周りに帯状の滑り止めを巻き、組成点あまり動かないように気をつけて、バランスよく組みます。難しいのですが、とても楽しい組紐です。From top to bottom: Cascading (24 tama), Baroque-Kongoh (16 tama), Kikko-lace-tube (12 tama, 16 tama), Unbalanced-Kongoh (24 tama).

多田牧子 Makiko Tada



2019 年「世界の組紐展」伊賀市 旧崇廣堂

日本とアメリカの組紐展

Exhibition of Japanese and American Kumihimo

kokoka 京都市国際交流会館 2F
京都市営地下鉄蹴上駅徒歩 5 分 南禅寺参道前

Kyoto City International Community House, 2F
5 min-walk from the Kyoto City Subway Ke-a-ge Station

日本の伝統工芸「組紐」は現在では世界中に広まり、各国の制作者や研究者が情報交換する国際会議や展示会も開催されています。アメリカでは、アクセサリへの応用が盛んで、特にビーズをあしらった組紐が研究されています。本年 10 月 17 日から、本学会と米国組紐協会有志が京都工芸繊維大学で合同のワークショップを開催しますが、この機会にアメリカの組紐と日本の組紐を比較しつつ、新しい組紐の潮流を一般の方にご覧頂けるならば有意義ではないかと考え、一般公開の展示会と致しました。日本とアメリカの組紐作家 40 人が、伝統的なあるいは全く新しい技法で制作した作品約 150 点が、過去の参考作品と共に展示されます。なお 12 日と 14 日の午前・午後の 1 時間程度を使って、新しい組紐制作を体験できる講習会を展示会場内で行います。展示会受付でお申込み下さい。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

組紐・組物学会 担当理事 多田牧子・西 幾代

The traditional Japanese braid, Kumihimo, has now spread over the world, and international conferences and exhibitions have been held where artists and researchers from various countries exchange information. Application of Kumihimo to accessories has been active in the U. S., particularly for those decorated with beads. The Kumihimo Society and the members of American Kumihimo Society are going to hold a joint workshop at Kyoto Institute of Technology from October 17 this year, and taking this opportunity, it would be meaningful to open this exhibition for the public to compare American and Japanese Kumihimo and to show the new trends of Kumihimo. About 150 works created by 40 Japanese and American Kumihimo artists using traditional or completely new techniques will be exhibited along with reference works from the past. On the morning and afternoon of the 12th and 14th, a one-hour workshop will be held in the exhibition room to allow visitors to try their hand at making new Kumihimo. Please inquire at the exhibition reception. We are looking forward to seeing you at the exhibition.

10 月 9 日 (月) 搬入 Installation • 10 日 (火) 休館 Closed

10:00 ~ 17:00	展示物搬入	Installation of exhibits	kokoka 京都市国際交流会館 2F
---------------	-------	--------------------------	---------------------

10 月 11 日 (水) ~ 15 日 (日) 作品展示会 Exhibition

10:00 ~ 17:00	作品展示会	Exhibition, admission free	入場無料・図録は 500 円
午前・午後各 1 時間程度	講習会 1	(12 日) Miini-workshop 1	参加無料 (材料は実費・道具は無償貸与)
17:30 ~ 19:30	懇親会	(13 日) Buffet party	組紐・組物学会会員のみ (申込必要)
午前・午後各 1 時間程度	講習会 2	(14 日) Miini-workshop 2	参加無料 (材料は実費・道具は無償貸与)
10:00 ~ 16:00	展示物搬出	(15 日) Exhibits removal	搬出完了 17:00

10 月 17 日 (火) ~ 19 日 (木) ワークショップ

1-day workshop

10:30 ~ 16:00	ワークショップ	(京都工芸繊維大学)	Workshop (Kyoto Institute of Technology)	有料
---------------	---------	------------	--	----

800 BC

組紐は進化する



(1) 投石紐（出土品）Sling braid



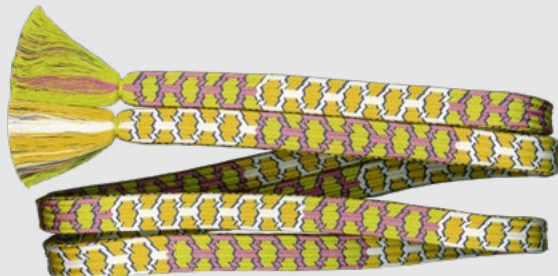
(2) 平紐（出土品）Andean flat braid

600 AD

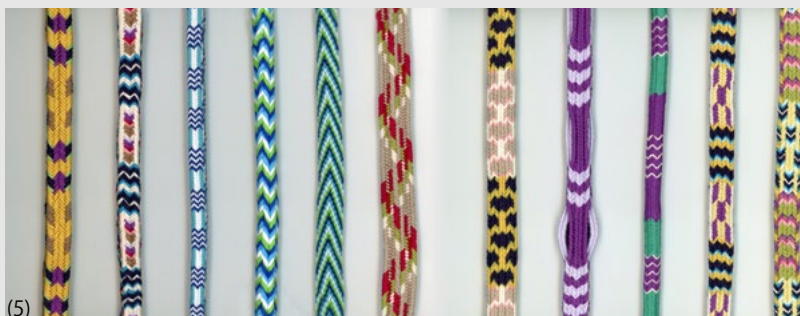
800



(3) 唐組平緒（現在も存続）Karakumi-Hirao



(4) 両面亀甲組（高台による復元）Ryomen-kikko (Reconstruction)



(5)



(6)

1400

2000

2000 年以上前の南アメリカには、高度な組紐文化が存在したが (1)(2) インカ時代になると消失した。日本には 1400 年遅れて組紐の全盛期が到来する (3)(4)。これらの組紐は道具を使わず、主に指と打込み棒だけのクテ打で組まれていたと考えられている (5)。その後クテ打用の足打台 (6) や唐組用の唐組台が用いられ、江戸時代には丸台や高台も登場して組紐の生産効率は向上した。しかし室町時代以降、組紐は紐という性質を維持したうえで柄の多様化以外には目立った進化は見られない。しかし今世紀になってから日本と北米に新しい潮流が見られる。組紐の宿命と思われた組角度の維持（糸の張力のバランス）をあえて考慮しない、自由な軸をもつ組紐 (7) と組糸の全長にビーズを通して丸台で組み、柄や色彩の多様性だけでなく、糸が直接肌に触れない装飾品としての合理性をもつビーズ組紐 (8) である。「日本とアメリカの組紐展」では、日本の伝統の組紐だけでなく、これらの新しい組紐にもご注目下さい。

2023



(7) 軸の自由な組紐 Moving-axis braid



(8) 金剛組ビーズ組紐 Beaded Kumihimo

800 BC

Early Ica and Nazca periods



現代の投石競技 Sling braid

投石紐を持つ男性
Ceramics Slinger

組紐の道具も進化する

古代南アメリカの組紐は道具を使わず、指だけで組まれていた。日本では明治時代までに、今日使用されている組紐の殆どが開発され、明治以降は産業用の組紐の機械化も開始された。

いっぽう組紐を用いた組紐制作では、おもりの重量による可搬性の問題、木工職人の不足などによる組紐費用の増大などが、個人の組紐制作の普及を妨げてきた。プラスチックフォームに組糸保持のスリットを有する「くみひもディスク」の登場により、安価に、場所を選ばずに組紐制作が可能になったことは、組紐の普及に大きく貢献した。また、組糸が長い場合、これを巻き取るポビンにも軽量で糸の取り出しの容易な「EZ ポビン」がアメリカで開発され、くみひもディスクと併用されている。

「日本とアメリカの組紐展」では、これらの新しい組紐道具を用いた組紐制作の講習会を開催する予定です。

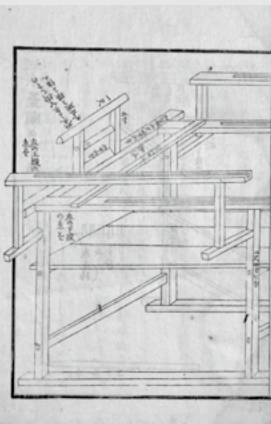
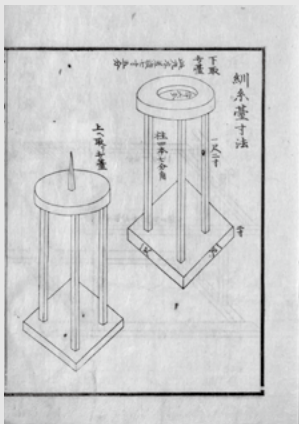
600 AD

800

Heian and Kamakura periods



1690_人倫訓蒙図彙 三谷一馬(模) 足打台 Loop braiding

1723_百人女郎品定
西川祐信 Early Yotsudai

1819_機織彙編 大関増業「高台」Takadai and center-hole Marudai

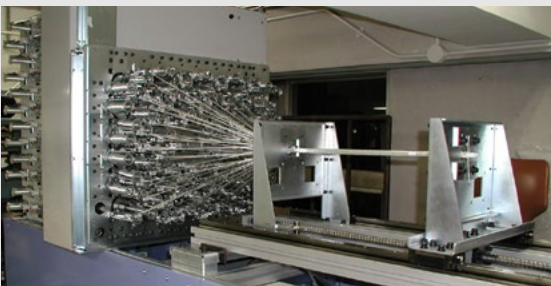


1850 頃_風流職人尽 歌川貞秀 組上げ式丸台 Marudai

1900

2000

Showa and Heisei periods



2001_3D 組機 (京都工織大) 3D braiding machine



2002_くみひもディスク・プレート・オクトプレート (ハマナカ) とEZ ポビン (米国製)

2023

「日本とアメリカの組紐展」に関するお問い合わせはこちらまで。 braid@kumihimo-society.org



会場 Venue

kokoka 京都市国際交流会館
Kyoto International Community House
2F 姉妹都市コーナー展示室
〒606-8536
京都市左京区粟田口鳥居町 2-1



主催 Organizer

組紐・組物学会 The Kumihimo Society
京都工芸繊維大学大学院
先端ファイブロ工学 大谷研究室内
〒606-8585
京都市左京区松ヶ崎御所海道町



共催 Co-organizer

(公財) 京都市国際交流会
Kyoto City International Foundation
米国組紐協会
American Kumihimo Society

